

(別紙:実践報告)

下地小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・ ESDを自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成することと捉えている。
- ・「ウェルビーイングを求めて生活する子」を目標に、心身の健康づくりを目指した指導に力を入れている。
- ・本校は自ら学び、自ら考え、主体的に行動できる子を育成するため「心温かい子」「よく聴いて考えを広げる子」「運動に親しむ子」を柱に活動や学習を進めている。また、「地域・家庭・学校の連携」を進めている

・活動の実際（R7年度の実践）

① 心温かい子

誰にでも優しく接することができるためには、まず自分を愛することができる事が大切と考え、自己肯定感をもてるようなさまざまな実践を行っている。学校保健委員会では、スクールカウンセラーの協力を得て、自分の心との向き合い方を学んだ。また、毎週2回15分間ずつの「にこにこタイム」ではグループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを行い、自己肯定感や友達との信頼関係を高めたり、友達とのかかわり方を考えたりした。

2年生の「おもちゃまつり」での保育園との交流、5年学活の「にじプロジェクト」での低学年との交流、6年総合「みんなにやさしい下地小」での校内のバリアフリーを考える授業などにより、相手を思いやることのできる子どもが育ってきている。



にこにこタイム：
グループエンカウンター

② よく聴いて考えを広げる子

自由に発言できる「お話タイム」を週1回、実践している。安心して自分の意見を言える雰囲気が醸成されてきており、相手の考えに耳を傾けようとする態度が育ってきている

問題解決型の授業を展開することにより、児童が自ら課題を見つけ、追及できることを目指している。また、「個による追及」から「交流（話し合い）」につなげるようにしている。自分の考えと友達の考えとを比較し、考えを広げるにつながっている。



お話タイム

③ 運動に親しむ子

よりよい生活習慣が身につくよう、学校保健委員会で専門家を招きメディア・デジタル機器との付き合い方を学び、子どもたちの意識を高めた。

体育では「マット運動ウィーク」「跳び箱ウィーク」など全学年で同じ時期に同種の種目の単元を行えるよう年間カリキュラムを組んでいる。その結果、運動器具などの準備時間の削減による児童の運動時間増加、教員間の情報交流による指導内容や安全管理の質の向上といった効果があった。

その結果、児童の体力は向上してきており、積極的に運動に親しもうという態度が育ってきている。



なわとびウィーク

④ 地域・家庭・学校の連携

来年度からのコミュニティスクールの実施に向けて、自治会やPTAと連携して仕組みづくりを進めている。現在、クラブ活動や家庭科の授業などに、地域在住のボランティアの方々にゲストティーチャーとして協力していただいている。また、地域教材である校区内の商店や豊川の流域などに児童が調査に行くときには、PTAの有志に安全確保のため引率に参加していただいている。地域は「下地の子どもは下地で育てる」という気概があり、子どもたちは地域や家庭の支援も受けながら成長している。